

「前年度の改善計画の進捗評価と評価結果」【令和5年度】

項目	前年度の改善計画	実施した具体的な取組	進捗・自己評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)</p>	<p>①看多機の機能を活かせるよう、複合型施設内の多職種と連携し在宅療養を中心とした支援を継続する。 ②職員が主体となり、事業所内勉強会の定期的な実施や、施設外研修への積極的な参加をしていく。カンファレンス方法の検討を行い、より良い方法を実践する。 ③事業所の特徴を職員一人一人が理解し、サービス提供できる環境作りの継続。業務の標準化とマニュアル作成を継続し、さらに共通認識できるシステムを構築する。</p>	<p>・利用者・家族の都合に合わせて、臨機応変にプランやケアを変更し、対応した。家族に見守られながらの看取りの取り組みを行っている。 ・内外部への研修の参加、支援計画書や手順書のアップデートを行い、統一したケアを実施出来た。 ・介護職として出来るケアを理解し、研修や看取りケアを通じて看多機に求められていることを職員一人一人の理解が深まった。</p>	<p>・訪問看護と連携して医療ニーズの高い方へのケア、家族のレスパイト、在宅での看取りを行っている。地域包括ケア充分ではない。 ・内外部への研修の参加率は徐々に上がっている。全体として個々に合わせた育成計画にはまだ課題が残る。 ・定期的なカンファレンスで意見交換、ケアの手順の更新などを行っている。手順書をより見やすく変更していき、統一したケアが行えるようになってきている。業務のマニュアルについては少しずつ整ってきている。</p>

運営推進会議における意見等

- ・業務の改善に熱心に取り組まれているともいます。地域への理解がさらに深まっていくと良いと思います。
- ・利用者さん、ご家族の状態や必要性、希望に合わせて臨機応変にプラン変更、調整できているというのはとてもすごいことだと思います。特に事業所内での統一は難しいことです。しかし、そのことの最終評価は利用者さん、ご家族によると思います。
- ・看多機にお世話になり、家族として安心度が高い。

<p>II. サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)</p>	<p>①居宅サービス（訪問看護・訪問介護）の充実と、24時間緊急時対応による在宅支援の継続 ②主治医や関係機関との連携を継続。利用者や家族の特性や変化に対応し、相互に理解した上で支援提供できるよう、多職種間の情報共有強化だけでなく、利用者や家族との情報交換を積極的に実施していく。</p>	<p>・緊急時の対応が素早くできるようスケジュールを変更対応できる。 ・ご利用者やご家族の現状を把握し、今後の事を良く相談し、共有し合えていると思う。 ・主治医との情報共有できている。状態変化は必ず連絡し、必要な時は、往診してもらってつなげている。 ・サマリーなどの情報のありがたさが分かりづらく、理解しづらいことも。 ・家族指導に関しては看護・介護とも専門性を基に行なってます。指導した内容を家族が取り入れていることが多いため、理解は得ていると考えられている。 ・終末期には、言葉での確認と何処で最後を迎えるかターミナルとして記録している。その取り組み状況経過記録をしている。</p>	<p>・昨年度同様、24時間緊急対応はできており、緊急時のスケジュール変更は管理者・CMの指示のもとで可能な限り即時対応が行えていました。そして、利用者ご家族様現状把握を職員と把握し相談して共有し合えています。 ・主治医との情報共有は看護師からも情報で共有しています。また、介護職が看護サマリーを読み込む事が少なく病状への理解に差が生じている事があったので、新年度は介護職もしっかりと看護サマリーを読み込み利用者の心身状態への理解を深めて行きたいです。 ・家族指導など看護・介護の専門性を基に指導は継続で来ているので、この専門性の知識を地域の方々へも発信できるような機会も設けて行きたいです。 ・今年度は終末期の対応に関して看護職員を軸に支援をしていましたが新年度は看護・介護が共に終末期の過ごし方をご家族様の思い、ご本人の最期まで自分らしく過ごして頂けるケアを考えて実践していきたいです。 ・今年度は、祝日開所できています。</p>
--	--	---	---

運営推進会議における意見等

- ・利用者やご家族への丁寧な対応ができていると思います。
- ・終末期は、本人、家族もなかなかどうしたいと明確に意見、想いを出しにくいと思います。エンドステージになる前から登録のタイミングを見ながら相談できるとありがたいと思います。地域の方との交流で知っていただくことも大事に思います。
- ・専門的立場から、様々なケア、アドバイスをして頂いている。
- ・祝日開所は、大変ありがたい。

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28~31)</p>	<p>①病院、施設などからの円滑な在宅生活移行への情報共有の継続 ②訪問看護ステーションもみじ、リハビリスタッフも参加するカンファレンス実施を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退院カンファレンスに参加したり、状況によってはカンファレンスを提案して退院後の生活をできるだけ具体的にイメージできるようにしている。 ・在宅での生活が円滑に出来るように看多機の必要な方への支援は行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院カンファレンスに参加し、情報共有は行っていた。また、こちらからカンファレンスを提案することができていた。 ・急変時等では訪問看護ステーションもみじの看護師も参加しカンファレンスを行っていたが、充実とまではいかなかった為、今後前もって看護、リハビリスタッフとのスケジュール調整、参加が難しい時には意見をもらうなどしてカンファレンスを充実させる。
<p>運営推進会議における意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退院や、体調変化に合わせ多機関との連携が意識されていて素晴らしいと思います。 ・主治医、入院先病院との情報が十分に行なえており、ありがたい。 			
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p> <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32~41)</p>	<p>①地域での取り組み内容や活動を知る機会をつくり、地域住民との交流や在宅生活における困りごとや相談を受けられる取組の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流委員会が取り組みとして「夏祭り、地域のパトロールやゴミ拾い」を実施。 ・年2回広報紙を発行、配布。HPやブログにて活動内容を報告。 ・運営推進委員会を定期開催し議事録は1週間以内に提出、1か月以内に郵送している。 ・看多機の登録者以外の利用者も訪問看護ステーションもみじは訪看を積極的に行っている。 ・医療ニーズ（喀痰吸引、経管栄養等）の高い利用者の利用、受け入れを積極的に行い、対応する職員の配置、育成を行っている。 ・人工呼吸器対象者がいない為、知識、経験、受け入れ体制ができていない。 ・看取り支援は積極的に行っており、サービス介入種類変更を即座に行える体制を整えている。 ・市内全体を対象とし看多機のサービスが必要な利用者を受け入れている。 ・改善等は運営推進委員会で意見交換している。 ・職員の勉強会、研修を行って介護力の向上、家族に指導等実施し全員で介護力を高めて行えるような関わりを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10ヶ月も落ち着いた地域での活動が少しずつ改善され始め来年度は「地域との交流」を積極的に行っていきたい。看多機という場所を職員で再確認、理解し利用者や家族、地域の人たちにもっとわかりやすく、親しみやすい場所として理解されるようにしていく。 ・医療的ニーズに柔軟に対応できる体制、場の提供。 ・事業所での看取り介護は、本年度8件であり各々自分らしさを損なわないようご家族様の気持ちも尊重して看取り介護出来た。今後も一人一人に合わせたサービス提供の介護をしていく。
<p>運営推進会議における意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との何か交流がすすめられれば良いと思います。 ・地域の方との交流の場の敷居が低くなり、交流の機会が日常的になっていくことを願います。 ・「看多機」という施設が一般的に知られていない。まず、地域の人に認知されると良い。 			

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目42~44)</p>	<p>①職員全体が看多機の役割の理解を深め、スキルアップとリーダーシップの向上を目指すことで、より積極的に看多機に求められる在宅生活を中心とした柔軟なサービス提供の実現をしていく。 ②利用者と家族の意思・意向を踏まえ、多職種間で迅速な情報共有と支援の方向性を統一すること、丁寧な説明を実施し理解を得ることで、さらに細やかな支援が可能となるような方法を検討し、実践していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて定期的な支援計画書の見直しをしている。 ・利用者の意向に向けた目標は達成できていることが多い。 ・定期的なモニタリングと担当国会議の実施し、それに沿っての介護職の支援計画書の作成ができている。 ・安心して在宅療養を継続できるようサービス提供できている。 ・訪問ケアを行い、急変時のオンコール対応等にしっかりと確立されたものが存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況等を観察し観察内容を各職員でカンファレンスすることで、内容を支援計画に落とし込み、実行している。利用者より希望がある際も同様である。 ・モニタリングや担当国会議で、家族や他職種と情報共有を行い支援内容の追加、変更を行えている。 ・家族から質問や疑問を受け返答を行い、対応のアドバイスを行えてる。急な通いや宿泊の相談も受けている。 ・利用者の急変やご家族希望で臨時の訪問対応も行っている。急変時Nsに報告する様指示を受けており、Nsも常駐している。 ・大まかな支援は実施できているが、個別対応ができていない日が時折ある為、確実に対応できるよう職員間での話し合いが必要である。
<p>運営推進会議における意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングや担当国会議で利用者へのさらに安心な対応ができると良いと思います。 ・きめ細かく考えられてると思います。利用される方、家族、また地域に向けても知っていただいたり、交流の場が持てると良いと思います。 ・スタッフの皆様には、大変よくして頂いている。心から感謝しています。 			

評価結果を踏まえた令和6年度「改善計画」

項目	改善計画	運営推進会議における意見等	
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)	①訪問看護と連携して医療ニーズの高い方へのケア、家族のレスパイト、在宅での看取りを行えている。地域包括ケアや地域資源を活用できるよう取り組んでいく。 ②各職員の能力に応じた内外部への研修参加、個別の育成計画を充実させていく。 ③利用者の状況に応じた手順書の作成・更新を月1で行う。マニュアル作成のマニュアルを作り、各職員にマニュアル作成を割り振っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に進んでいると思います ・職員が自らマニュアルを作成することは、各自問題点等を把握でき、業務の見直しに役に立つと思う。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	①介護職が看護サマリーを読み込む事が少なく病状への理解に差が生じている事があったので、新年度は介護職もしっかりと看護サマリーを読み込み利用者の心身状態への理解を深めて行き。家族指導など看護・介護の専門性を基に指導は継続で来ているので、この専門性の知識を地域の方々へも発信できるような機会も設けていきたい。 ②今年度は終末期の対応に関して看護職員を主軸に支援をしていましたが新年度は看護・介護が共に終末期の過ごし方をご家族様の思い、ご本人の最期まで自分らしく過ごして頂けるケアを考えて実践していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の知識を活かした地域への取り組みに期待したい、できることがあれば応援したいです。 ・看護だけでなく、介護職の専門性も上がっていただけることを期待しています。 ・看護と介護は一心同体であり、利用者の心身状態をお互いに情報交換していくことが大事。利用者の状況をお互いの立場でしっかり見ることで、より良いサービスにつながるのではないのでしょうか。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	①訪問看護ステーションもみじの看護、リハビリスタッフが参加するカンファレンス実施時には事前のスケジュール調整、参加が難しい時には意見をもらうなどしてカンファレンスを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能の良さをこれからも発揮し、よりよい改善を期待しています。 ・ケースの今後に向けたカンファレンス及び振り返りのカンファレンスの充実を期待しています。 ・充実したカンファレンスを実施することは、皆が参加して率直な意見がでていないと連携がとれないと思う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	①利用者家族、地域の人たちと一緒に、看多機の姿や介護のいろはを知って頂く取り組み（講座等）を行っていく。 ②人工呼吸器等まだ受け入れていない症状や在籍利用者の症状を理解を深め、対応出来るように勉強会などの実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に理解される取り組みに期待しています。 ・看多機の強みを応援していただけるとありがたいです。 ・職員の個々の問題意識が高く、利用者等の症状に沿った取り組みが良く伝わってきています。
III. 結果評価 (評価項目42～44)	①大まかな支援は実施できているが、個別対応ができていない日が時折ある為確実に対応できるよう職員間での話し合いが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変は難しいのですが、利用する側からはとてもありがたい面です、よろしく願います。 ・スタッフの皆さんが大変丁寧に対応してくださっています。任務過重にならないように、次年度もよろしく願います。 ・何か必要で、どうしたらより良い介護が必要か前向きな姿勢で取り組んでいると思います。 	